

科学技術・学術審議会学術分科会

研究費部会（第12期第12回）議事次第

令和7年1月23日（木）
16：00～18：00

1. 開 会

2. 議 事

- (1) 前回までの議論について
- (2) 令和7年度当初予算案について
- (3) 審議まとめ案について
- (4) その他

3. 閉 会

科学技術・学術審議会 学術分科会 研究費部会（第12期第12回）資料

- （資料1）研究費部会（第11回・令和6年12月24日）における主な意見**
- （資料2）令和7年度当初予算案について**
- （資料3-1）第12期研究費部会における科学研究費助成事業（科研費）の改善・充実について（第12期審議まとめ）（案）**
- （資料3-2）審議まとめ案の参考資料**
参考資料

【資料2（総合経済対策及び令和6年度補正予算について）関係】

- 補正予算での52億円の確保について、努力に敬意を表する。科研費の重要性は産業界からも最近言われていることでもあるので、より増額を補強するということで、本部会としても努力していくべき。
- 「国際・若手支援強化枠」における若手の定義は39歳以下とのことだが、文系の場合は実質的に埋もれてしまう研究者がいるかもしれないので、引き続き検討するべき点かと思う。
- 当初予算で要求していた国際性の評価基準の導入及び評価が高い課題に対する追加配分と補正予算の内容がセットになっていることを理解した上で、今回の補正予算の位置付けを御理解いただければ、よりその意義が明らかになると思う。
- 国際性の評価基準は複数ある評価基準の一つであるところ、配点は5点満点という非常に簡易なものであり、この評価基準のみに基づいて充足率の向上や若手の採択件数の増を決めて良いのかというと、そこまで重みのある評価基準ではないような印象を受ける。

【資料3（科研費による研究設備・機器の共用の促進について）関係】

- 国費により購入した実験設備・機器等をできる限り有効活用するという趣旨自体は理解できるが、科研費は基本的に個人研究を支援する競争的研究費であるため、特別な施策等を講じない限りは共用がなかなか進まないというのは、ある意味当然なことである。
- 使用ルールの改訂案に関して、「利用者による利用をサポートできる者が存在すること」や「複数の研究機関が参画する検索システムに登録すること」等の定めを遵守するためには人件費等が発生するが、その点の予算措置を講じることなく、義務だけを課しても難しいのではないか。
- 利用者による研究機器・設備の利用をサポートできる者がいないパターンもあるかもしれないので、使用ルール案の書き方を少し緩めたほうが良いのではないか。
- 共同利用・共同研究拠点の事例では、科研費で導入された大型の装置はほとんど共用化されており、運営費交付金を含む複数財源による導入等の面で研究者側にインセンティブがあるほか、施設の機能強化に通ずる点においては機関側にもインセンティブがある。
- 共用化によって、機器・設備を主に使用する研究者の負担となるのは事実。
- 共用の促進は、科研費の枠組みで解決できる問題ではなく、研究機関がそのためのシステムを構築できるよう、文科省全体として各研究機関に要請するような性質の事柄ではないか。

【資料3（科研費による研究設備・機器の共用の促進について）関係】（続）

- 厳格な表現でルールを定めるのではなく、貸すように求められたら貸してあげてくださいというぐらゐの表現のルールを定める方が実質的だと思う。
- 数年前から「先端研究基盤共用促進事業」が開始されており、所属研究機関における共用の仕組みをシステムとして立ち上げる上で非常に役立ったので、そういった制度設計をより多くの大学に広げることで、より使いやすく、研究者の意思が通じるようにしていただきたい。
- 共用化については、研究設備・機器の設置場所を確保できたり、修理費をシェアできるという意味ではアドバンテージが大きいですが、個々の研究者としては、使い方が研究者によって異なることによつて装置が壊れたり分析の精度が落ちるといったことを懸念しているのが現状である。

【資料4（目指すべき採択率・充足率の水準について）関係】

- 全体として30%の採択率を目指すとともに、充足率は80%を目指し、なおかつ研究課題ごとに充足率を傾斜的に適用するという、全体の方針については強く賛成する。
- 今後、応募上限額をさらに引き上げる際には、やはり充足率をある程度高くして、なおかつ評価の高い研究課題については充足率を100%に近づけることにより、応募額が持つ意味をもう少し高めるべき。
- 「若手研究」については、採択率は高く、充足率は低くなっているが、このバランスが本当にベストなのか。例えば当事者である若手研究者はどう思っているのか。

【資料4（目指すべき採択率・充足率の水準について）関係】（続）

- 大型の研究種目の採択率が著しく低い点は大きな問題であり、こうした種目でも採択率30%を実現するためには、例えば「学術変革領域研究（A）」を「基盤研究（S）」に合併する等、研究種目の再編に取り組むべき。
- 統計データにはある意味で説得力があるが、統計分析が成り立つためにはランダム性等の条件があり、分析を誤ると大きなダメージとなるため、分析結果をしっかりと検証すべき。
- 採択率30%を偏差値に換算すると55であり、偏差値55というのは中心よりもかなり進んだところにあるので、妥当なラインかと思う。
- 大型の研究種目ほど研究代表者に占める女性の割合が低くなるように感じるため、次なる目標として、大型の研究種目における採択者の幅が広がるような措置があれば良い。
- 統計分析の結果については、記述統計のデータと併せてバックアップしてもらえれば。

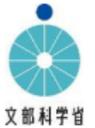
【資料5（第12期審議まとめ 骨子案）関係】

- 「4. 第13期研究費部会において引き続き検討すべき事項」については、あまりボリュームがあると第12期は何をしていたのかとなるので、「3. 具体的に取り組むべき事項」では、「基盤研究(B)」の基金化等の具体的に議論した事項のボリュームを増やしてほしい。



科学研究費助成事業（科研費）

令和7年度予算額（案） 2,379億円
（前年度予算額 2,377億円）



令和6年度補正予算額 52億円

事業概要

- 人文学・社会科学から自然科学まで全ての分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる「学術研究」（研究者の自由な発想に基づく研究）を格段に発展させることを目的とする競争的研究費
- 大学等の研究者に対して広く公募の上、複数の研究者（8,000人以上）が応募課題を審査するピア・レビューにより、厳正に審査を行い、豊かな社会発展の基盤となる**独創的・先駆的な研究**に対して研究費を助成
- **科研費の配分実績（令和6年度）**：
応募約9.4万件に対し、**新規採択は約2.6万件**（継続課題と合わせて**年間約8万件の助成**）

予算額の推移



主な制度改善

- [H23] 基金化の導入（基盤研究（C）、若手研究（B）等）
- [H27] 国際共同研究加速基金の創設
- [H30] 審査区分の大括り化、審査方法を刷新
- [R03] 国際先導研究の創設
- [R05] 基盤研究（B）の基金化
- [R06] 国際性の評価の導入

令和6年度補正予算及び令和7年度予算（案）の骨子

我が国の研究力の相対的な低下傾向が課題となる中、**科研費の審査に「国際性」の評価を導入**した上で**国際競争力を有する研究や若手研究者への支援を質的・量的に充実**させることにより、我が国の研究力・国際性の抜本的な向上を図る。

1. 学術研究における国際性の強化 -「国際性」評価による重点配分の導入-

- 科研費の中核的な種目であり、毎年約6万件の応募がある「基盤研究（A・B・C）」において、国際性の評価が高い研究課題に対して応募額を尊重した研究費の配分を行う。

2. 若手研究者支援の強化 -「国際・若手支援強化枠」の創設-

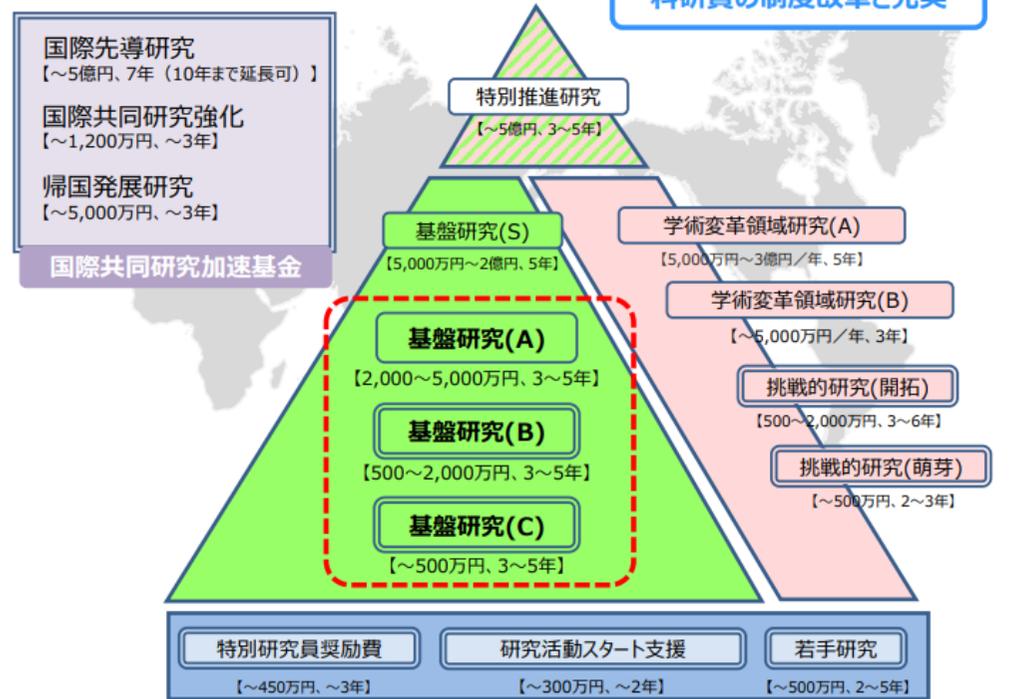
【令和6年度補正予算】

- 若手研究者からの応募が多い「基盤研究（B・C）」において、「国際・若手支援強化枠」を創設し、国際性の高い研究に取り組む若手研究者の研究機会を拡大する。

○経済財政運営と改革の基本方針2024（令和6年6月21日閣議決定）

・研究の質や生産性向上による基礎研究力の抜本的な強化に向け、科学技術政策全般のEBPMの強化を図りつつ、大学の教育・研究・ガバナンスの一体改革を推進する。また、運営費交付金や私学助成等の基盤的経費を十分に確保するとともに、科研費の制度改革を始めとする研究資金の不断の見直しと充実を図る。

科研費の制度改革と充実



※二重枠線は基金化種目

（担当：研究振興局学術研究推進課）

參考資料

科研費の各研究種目の役割と全体構成

○ 研究者のキャリアアップ、研究テーマの進展に応じて、自らが**挑戦**できるよう、研究種目を設定。

(二重枠線は基金化種目)

国際共同研究の支援

「国際共同研究加速基金」

国際社会における我が国の学術研究の存在感を向上させるための国際共同研究や海外ネットワークの形成を促進

国際先導研究

【～5億円、7年（10年まで延長可）】

国際共同研究強化

(旧：国際共同研究強化 (A))
【～1,200万円、～3年】

海外連携研究

(旧：国際共同研究強化 (B))
【～2,000万円、3～6年】

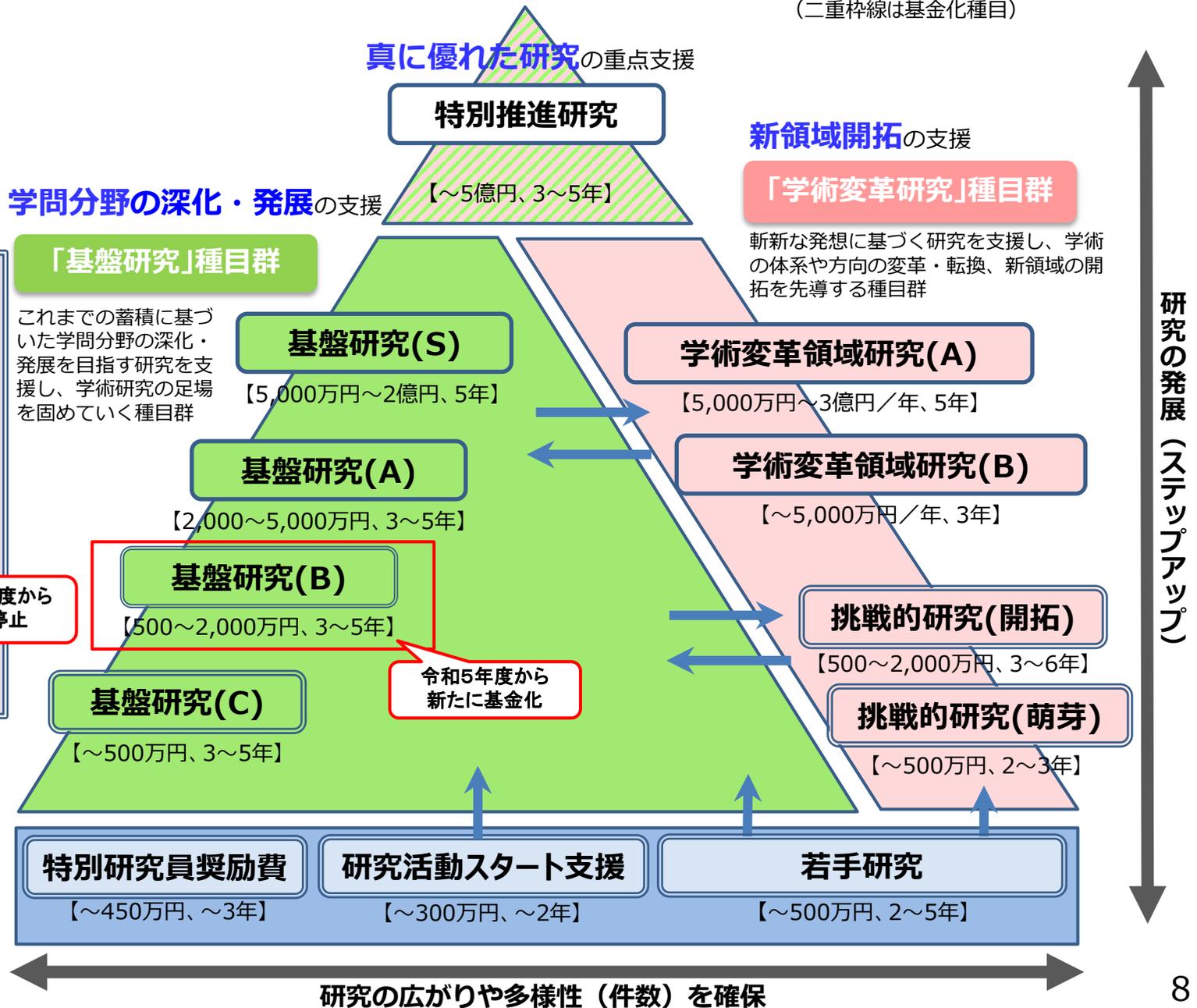
帰国発展研究

【～5,000万円、～3年】

若手研究者の支援

「若手研究」種目群

若手研究者に独立して研究する機会を与え、研究者としての成長を支援し、「基盤研究」種目群等へ円滑にステップアップするための種目群



過去10年の実績推移 — 基盤研究 (S・A) —

基盤研究 (S・A) の採択率はほぼ横ばい、充足率 (配分額/応募額) は長期的に見て低下傾向。

基盤研究 (S) (補助金)

対 象：独創的、先駆的な研究を格段に発展させる、一人又は複数の研究者で組織する研究計画

応募総額：原則5年間 5,000万円以上 2億円以下

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
応募件数 (件)	585	658	661	654	645	704	659	685	649	649	571
採択件数 (件)	87	87	87	95	81	80	81	80	80	80	70
採択率	14.9%	13.2%	13.2%	14.5%	12.6%	11.4%	12.3%	11.7%	12.3%	12.3%	12.3%
充足率	86.3%	73.5%	76.7%	84.1%	84.7%	79.5%	81.7%	81.0%	81.0%	80.9%	84.0%
1 課題当たりの単年度における平均配分額 (千円)	41,853	36,862	37,886	37,235	41,274	40,998	38,454	40,123	38,684	40,418	40,136

基盤研究 (A) (補助金)

対 象：独創的、先駆的な研究を格段に発展させる、一人又は複数の研究者で組織する研究計画

応募総額：3～5年間 2,000万円以上 5,000万円以下

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
応募件数 (件)	2,300	2,544	2,585	2,601	2,567	2,454	2,412	2,519	2,292	1,920	1,802
採択件数 (件)	541	583	597	634	636	605	605	611	628	526	491
採択率	23.5%	22.9%	23.1%	24.4%	24.8%	24.7%	25.1%	24.3%	27.4%	27.4%	27.2%
充足率	74.5%	68.0%	70.0%	72.1%	71.4%	72.9%	74.7%	74.3%	69.6%	70.0%	77.3%
1 課題当たりの単年度における平均配分額 (千円)	12,545	11,417	11,509	11,513	11,254	12,083	11,763	11,566	11,091	11,354	12,132

過去10年の実績推移 — 基盤研究 (B・C) —

基盤研究 (B) については、若手研究 (A) の平成30年度から公募停止、基盤研究 (B) に若手研究者への優先採択枠を設ける制度変更により、採択率は上昇。基盤研究 (C) は応募件数の大幅増もあり、採択率は低下し、充足率は大幅に低下。

基盤研究 (B) (補助金)

対 象：独創的、先駆的な研究を格段に発展させる、一人又は複数の研究者で組織する研究計画

応募総額：3～5年間 500万円以上 2,000万円以下

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
応募件数 (件)	10,205	10,863	11,396	11,369	11,041	11,577	11,396	12,198	11,320	11,552	11,555
採択件数 (件)	2,523	2,580	2,638	2,813	2,729	2,965	3,327	3,393	3,396	3,403	3,234
採択率	24.7%	23.8%	23.1%	24.7%	24.7%	25.6%	29.2%	27.8%	30.0%	29.5%	28.0%
充足率	73.8%	67.0%	69.2%	71.0%	71.4%	71.1%	71.2%	72.7%	71.3%	71.5%	76.6%
1 課題当たりの単年度における平均配分額 (千円)	5,311	4,824	4,958	5,134	5,041	5,116	5,068	5,057	4,996	5,014	5,342

(注1) 平成27年度交付分から500万円以下を基金とする「一部基金」を取りやめ。

(注2) 令和2年度公募をもって若手研究者の応募課題を優先的に採択できる仕組みを終了。

基盤研究 (C) (基金)

対 象：独創的、先駆的な研究を格段に発展させる、一人又は複数の研究者で組織する研究計画

応募総額：3～5年間 500万円以下

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
応募件数 (件)	33,871	35,329	36,843	38,049	40,486	43,587	45,758	44,948	45,496	45,434	43,689
採択件数 (件)	10,127	10,549	10,975	11,392	11,983	12,175	12,918	12,775	12,817	12,952	11,991
採択率	29.9%	29.9%	29.8%	29.9%	29.6%	27.9%	28.2%	28.4%	28.2%	28.5%	27.4%
充足率	77.6%	75.6%	73.9%	72.4%	71.4%	67.7%	67.0%	66.7%	64.1%	64.3%	72.3%
1 課題あたりの全研究期間における平均配分額 (千円)	3,545	3,473	3,416	3,346	3,299	3,115	3,087	3,069	2,941	2,950	3,345

過去10年の実績推移 ー若手研究（A）、若手研究ー

若手研究は、平成30年度公募から応募要件変更の経過措置（博士号未取得者も応募を認める）について、令和2年度公募に終了した影響もあり、応募件数が減少。若手研究者支援の拡充もあり、採択率・充足率は上昇。

若手研究（A）（補助金）

対 象：39歳以下の研究者が一人で行う研究計画であって、将来の発展が期待できる優れた着想を持つ研究計画

応募総額：2～4年間 500万円以上 3,000万円以下

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
応募件数（件）	1,779	1,810	1,736	1,721	1,837	—	—	—	—	—	—
採択件数（件）	394	409	389	423	433	—	—	—	—	—	—
採択率	22.1%	22.6%	22.4%	24.6%	23.6%	—	—	—	—	—	—
充足率	69.0%	64.7%	63.8%	67.6%	67.3%	—	—	—	—	—	—
1 課題当たりの単年度における平均配分額（千円）	7,753	7,133	7,300	7,563	7,570	—	—	—	—	—	—

（注1）平成30年度公募から新規公募停止し、基盤研究（B）において若手研究者の応募課題を優先的に採択できる仕組みを導入。

若手研究（基金）

対 象：博士の学位を取得後8年未満の研究者（注2）が一人で行う将来の発展が期待できる優れた着想を持つ研究計画

応募総額：2～5年間 500万円以下

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
応募件数（件）	20,330	19,683	19,272	18,996	19,271	20,369	19,590	18,708	13,163	13,142	13,060
採択件数（件）	6,079	5,876	5,771	5,716	5,817	6,256	7,831	7,496	5,294	5,293	5,274
採択率	29.9%	29.9%	29.9%	30.1%	30.2%	30.7%	40.0%	40.1%	40.2%	40.3%	40.4%
充足率	64.9%	60.1%	62.4%	61.9%	64.9%	64.2%	64.8%	64.6%	71.2%	70.8%	71.6%
1 課題あたりの全研究期間における平均配分額（千円）	2,846	2,664	2,789	2,772	2,912	2,898	2,889	2,890	3,228	3,231	3,287

（注1）平成30年度公募から「若手研究（B）」の名称を「若手研究」に変更。応募要件を従来の39歳以下の研究者から（注2）に変更。

（注2）博士の学位を取得見込みの者及び博士の学位を取得後に取得した産前・産後の休暇、育児休業の期間を除くと博士の学位取得後8年未満となる者を含む。

（注3）令和2年度公募をもって「若手研究」における39歳以下の博士号未取得者の応募を認める経過措置を終了。

（注4）令和3年度公募から、若手研究者が継続的・安定的に研究を遂行できるよう、研究期間を「2～4年間」から「2年～5年間」に延伸。

過去10年の実績推移 — 挑戦的研究（開拓・萌芽） —

平成29年度公募から挑戦的萌芽研究を挑戦的研究（開拓・萌芽）に見直し、挑戦的な研究の実行が担保されるよう、応募額を最大限尊重する予算配分方針に変更。

挑戦的研究（開拓・萌芽）

目的：一人又は複数の研究者で組織する研究計画であって、これまでの学術の体系や方向を大きく変革・転換させることを志向し、飛躍的に発展する潜在性を有する研究計画。なお、（萌芽）については、探索的性質の強い、あるいは芽生え期の研究計画も対象とする

内容：（開拓）3～6年間 500万円以上 2,000万円以下 （萌芽）2～3年間 500万円以下

挑戦的研究（開拓）（補助金→令和2年度以降：基金）

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
応募件数（件）	—	—	—	—	1,116	823	699	1,607	1,564	1,365	1,502
採択件数（件）	—	—	—	—	94	82	81	148	178	183	177
採択率	—	—	—	—	8.4%	10.0%	11.6%	9.2%	11.4%	13.4%	11.8%
充足率	—	—	—	—	99.6%	99.6%	99.7%	99.6%	99.6%	99.5%	99.6%
1 課題あたりの全研究期間における平均配分額（千円）	—	—	—	—	19,406	19,413	19,511	19,220	19,676	19,693	19,752

挑戦的研究（萌芽）（基金）

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
応募件数（件）	13,865	15,366	16,757	17,895	14,491	11,811	10,815	9,722	9,963	9,391	9,036
採択件数（件）	3,582	3,950	3,952	3,613	1,586	1,426	1,388	1,241	1,570	1,505	1,115
採択率	25.8%	25.7%	23.6%	20.2%	10.9%	12.1%	12.8%	12.8%	15.8%	16.0%	12.3%
充足率	59.9%	58.3%	57.9%	55.1%	98.6%	96.8%	98.7%	98.7%	98.8%	98.8%	98.8%
1 課題あたりの全研究期間における平均配分額（千円）	2,816	2,755	2,735	2,620	4,781	4,712	4,848	4,827	4,832	4,857	4,882

（注1）平成25～28年度は「挑戦的萌芽研究」の実績を記載。

（参考）挑戦的萌芽研究

目的：1人又は複数の研究者で組織する研究計画であって、独創的な発想に基づく、挑戦的で高い目標設定を掲げた芽生え期の研究

内容：1～3年間 500万円以下

(参考) 過去の実績推移 ー国際共同研究加速基金ー

国際共同研究強化 (平成27年度創設。平成30年度から令和4年度までは国際共同研究強化(A))

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
応募件数 (件)	—	1,089	629	605	505	436	400	291	311	317
採択件数 (件)	—	358	212	201	162	141	126	98	113	104
採択率	—	32.9%	33.7%	33.2%	32.1%	32.3%	31.5%	33.7%	36.3%	32.8%
充足率	—	93.3%	92.4%	95.3%	99.3%	97.4%	90.2%	99.7%	99.2%	99.8%
1 課題あたりの全研究期間における平均配分額 (千円)	—	9,760	9,680	9,957	10,612	10,348	9,509	10,584	11,242	11,210

海外連携研究 (平成30年度創設。令和4年度までは国際共同研究強化B)

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
応募件数 (件)	—	—	—	—	2,335	1,599	1,231	848	665	1,055
採択件数 (件)	—	—	—	—	234	280	255	201	180	206
採択率	—	—	—	—	10.0%	17.5%	20.7%	23.7%	27.1%	19.5%
充足率	—	—	—	—	69.2%	70.7%	71.9%	73.0%	77.1%	80.7%
1 課題あたりの全研究期間における平均配分額 (千円)	—	—	—	—	13,519	13,638	14,024	14,275	15,132	15,943

帰国発展研究 (平成27年度創設)

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
応募件数 (件)	—	45	35	36	34	45	48	47	50	46
採択件数 (件)	—	14	12	8	11	15	12	10	16	10
採択率	—	31.1%	34.3%	22.2%	32.4%	33.3%	25.0%	21.3%	32.0%	21.7%
充足率	—	87.8%	86.6%	90.0%	95.0%	86.0%	86.0%	88.6%	94.3%	88.2%
1 課題あたりの全研究期間における平均配分額 (千円)	—	38,757	33,933	38,763	37,055	38,920	42,092	43,930	46,050	40,080

国際先導研究 (令和3年度創設)

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
応募件数 (件)	—	—	—	—	—	—	—	—	131	77
採択件数 (件)	—	—	—	—	—	—	—	—	15	12
採択率	—	—	—	—	—	—	—	—	11.5%	15.6%
充足率	—	—	—	—	—	—	—	—	99.9%	100.0%
1 課題あたりの全研究期間における平均配分額 (千円)	—	—	—	—	—	—	—	—	498,760	499,608

学術変革領域研究 (A) 計画研究 (補助金)

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
応募件数 (件)	—	—	—	—	—	—	—	1,956	1,680	1,503	1,389
採択件数 (件)	—	—	—	—	—	—	—	173	149	112	151
採択率	—	—	—	—	—	—	—	8.8%	8.9%	7.5%	10.9%
1 課題あたりの単年度における平均充足率	—	—	—	—	—	—	—	92.9%	74.7%	92.5%	78.8%
1 課題あたりの単年度における平均配分額 (千円)	—	—	—	—	—	—	—	23,124	22,140	26,128	23,485

学術変革領域研究 (A) 公募研究 (補助金)

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
応募件数 (件)	—	—	—	—	—	—	—	—	1,420	1,055	1,871
採択件数 (件)	—	—	—	—	—	—	—	—	348	303	562
採択率	—	—	—	—	—	—	—	—	24.5%	28.7%	30.0%
1 課題あたりの単年度における平均充足率	—	—	—	—	—	—	—	—	98.3%	92.9%	95.7%
1 課題あたりの単年度における平均配分額 (千円)	—	—	—	—	—	—	—	—	3,228	2,990	3,077

学術変革領域研究 (B) 計画研究 (補助金)

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
応募件数 (件)	—	—	—	—	—	—	—	2,939	1,630	875	537
採択件数 (件)	—	—	—	—	—	—	—	91	112	90	81
採択率	—	—	—	—	—	—	—	3.1%	6.9%	10.3%	15.1%
1 課題あたりの単年度における平均充足率	—	—	—	—	—	—	—	85.2%	70.0%	68.6%	82.6%
1 課題あたりの単年度における平均配分額 (千円)	—	—	—	—	—	—	—	8,385	7,493	7,581	8,612

[出典：文部科学省調べ]